

## 講師プロフィール(平田 直)

【職名】 地震研究所 地震予知研究センター長 ・ 教授

【専門】 観測地震学 陸域機動地震観測グループ

【学歴】

昭和 53 年 東京大学理学部地球物理学科 卒業

昭和 55 年 東京大学大学院理学系研究科地球物理学専攻 修士課程 終了

昭和 57 年 東京大学大学院理学系研究科地球物理学専攻 博士課程 退学



【職歴】

昭和 57 年－昭和 63 年 東京大学理学部 助手

昭和 63 年－平成 5 年 千葉大学理学部 助教授

平成 5 年－平成 10 年 東京大学地震研究所 助教授

平成 10 年－現在 東京大学地震研究所 教授

平成 17 年－平成 21 年 東京大学地震研究所 副所長

平成 21 年－平成 23 年 東京大学地震研究所 所長

平成 23 年- 東京大学地震研究所 地震予知研究センター長

平成 26 年- 一般社団法人防災教育普及協会 会長

【研究内容】

地殻の不均質構造と微小地震活動の時間的・空間的分布の関係を大規模で集中的な観測によって明らかにする。これまで、例えば、1995年兵庫県南部地震や、1999年台湾集集地震、2004 年新潟県中越地震などでは余震観測を本震発生直後から実施して、本震断層の形状、余効的地殻活動を明らかにした。また、伊豆半島では発生している群発地震を、通信衛星テレメータ地震観測と機動的臨時観測とを組み合わせ実施した。【島弧地殻の変形過程と内陸大地震の発生機構】観測的方法によって日本を含む島弧地殻の構造と進化の過程を特に、地殻の変形過程に注目して研究する。この研究の目標は、島弧内部の地殻の変形がどのように内陸大地震の発生を準備し、地震に至るかを明らかにすることである。地震予知研究計画の一環として東北奥羽脊梁(せきりょう)山地、北海道日高地方、後津川断層付近、濃尾断層付近で自然地震の観測、制御震源(人工地震)の観測を行った。近年では、首都圏に約 300 か所の地震観測点(首都圏地震観測網:Metropolitan Seismic Observation network: MeSO-net)を整備して、南関東の下のプレート構造の研究を行っている。

【著書】

平田直, 首都直下地震, 岩波書店, 2016

平田直, 地殻ダイナミクスと地震発生(分担、菊地正幸編), 朝倉書店, 2002

平田直・佐竹健治・目黒公郎・畑村洋太郎, 巨大地震・巨大津波 一東日本大震災の検証-, 朝倉書店, 2011.